意識を変えて、はじまる健康

INVEST IN WELLNESS

あなたのまわりの
健康の“旗振り役”

当たり前の健康のそばに—
医療保険を支える社会の旗振り役

INVEST IN WELLNESS インベストインウェルネス vol.6 2025.7 発行所 福井県済生会病院 健診センター 〒918-8503 福井県福井市和田中町舟橋7番地1 2025年7月18日発行 非売品 TEL 0776-28-8513（直通） FAX 0776-28-8520 https://www.fukui-saiseikai.com/health_check/

WELLNESS Voices
ウエルネスボイス

“Why”を紐解いて見つける
あなたらしい幸せのかたち

「どう生きる?」「なにをする?」—— わたしたちの毎日は、たくさんの問いに囲まれています。日々の選択の中で、かけがえのない自分自身の心や体に向き合い、その「なぜ?」を紐解けば、生き生きと過ごすヒントが見つかるかもしれません。

WELLNESS Voicesでは、予防医療の現場から、皆様の人生を豊かにする“Why”をお届けします。

第3回

院長補佐
宗本 義則先生

Q なぜ、治療に対話が必要なのですか？

抗がん剤治療をお勧めしても、「やりたくありません」と答える患者さんがいます。理由を伺うと、「髪が抜けたら仕事ができない」「犬がいるので入院できない」といった事情がありました。医療者が考える正しい治療が、必ずしもその人にとっての最善とは限らないことに、改めて気づかされます。

かつては、正確な情報を伝え、最適な治療や手術で身体を治すことが、医療者の役割でした。しかし今は、医療者と患者さんが互いに寄り添い、いくつもの選択肢のなかから一緒に治療を選ぶ時代。病気や身体の状態、治療の成功率だけでなく、「モデルの仕事を続けたい」「毎日愛犬の散歩をしたい」といった、個々人の生活や思いに耳を傾けてこそ、最善の治療が見えてきます。

医療現場ではＡＩの活用が進み、膨大な情報を整理し、患者さんに合った治療の選択肢を提示できるようになりました。しかし、最終的にどの道を選ぶのか、そして、がんとともに生き続ける気持ちを支えるのは、人と人との対話です。これからの医療者に求められるのは、「いかに良い対話ができるか」ではないでしょうか。

患者さんは、ご自身が大切にしていることを、遠慮せずに医療者に伝えてください。医療者は、その声を必ず受け止めます。自分らしい生き方で治療を続けるために、心と心で対話を重ねていきましょう。集学的がん診療センターやがん哲学外来を通じて、わたしたちはこれからも、がんとともに生きるみなさんを支えていきます。

社会福祉法人恩賜財団済生会支部
福井県済生会病院 健診センター
〒918-8503 福井県福井市和田中町舟橋7番地1
TEL 0776-28-8513（直通） FAX 0776-28-8520
https://www.fukui-saiseikai.com/health_check/

あなたのまわりの健康の“旗振り役”

協会けんぽ 福井支部

当たり前の健康のそばに―医療保険を支える社会の旗振り役

健康に向き合うきっかけは、制度や義務ではなく、身近な誰かの声や想いかもしれません。
INVEST IN WELLNESSでは「健康の旗振り役」をテーマに、
社会・企業・家庭で健康づくりを先導する人たちの想いに光を当てます。
今回の旗振り役は、公的医療保険制度の一翼を担う「協会けんぽ福井支部」。
すべての人に健康を届けるために、見えないインフラを支える職員の言葉をお届けします。

今回の旗振り役

前田 英之さん（福井支部 支部長）
民間企業から転身し協会けんぽへ。“目に見えない価値”と向き合いながら、支部の先頭に立つ。「健康づくりは幸せづくり。加入者の健康を隣で支える“伴走者”でありたい」

齊藤 よしみさん（保健グループ長補佐）
健診や保健指導の広報を担当。制度の“届きにくさ”に向き合いながら、地域に根ざした情報発信を続ける。「自分の健康は、自分だけじゃなく、大切な人の安心にもつながっています」

田中 康義さん（企画総務グループ長）
医療費の適正化や企業連携を担い、社会全体の健康を見据えて実務を支える。「病気になる前の予防と、なってからの保険制度。どちらも支えるのが私たちの仕事」

当たり前の健康を支える医療と予防のセーフティーネット

齊藤　協会けんぽが運営する医療保険制度は、全国約4，000万人（国民の3人に1人）が加入する制度です。わたしたちは民間組織ではありますが、保険制度を担う公共性の高さが特徴。平等に、公平に、みなさんの健康が当たり前に守られるようセーフティーネットとして事業を運営しています。

田中　協会けんぽの事業には大きく二つの柱があります。病気やケガをしたときに使える医療保険制度を社会のインフラとして維持・運営すること。予防を目的とした健診や保健指導などの保健事業です。健康が重要であることは言うまでもありませんが、人間の幸せに直結する仕事として、誇りをもって健康づくりに携わっています。

前田　健康は目に見えづらく、成果もすぐにはわからないですよね。だからこそ、長期的な目線をもって向き合う必要があります。難しい仕事ではありますが「国民の健康」という崇高な目標を掲げる協会けんぽの事業には、やはりやりがいを感じます。

福井の小規模事業者に健康を考えるきっかけを届ける

前田　福井県は、中小零細企業が多く、従業員9人以下の事業所が協会加入事業所の7割を超えています。そういった事業所では従業員の健康診断まで管理しきれていないケースも多く、結果的に健康診断の受診率が極端に低くなってしまう。それが今の大きな課題です。

齊藤　もし、協会の事業の効率性を優先して考えるのであれば、従業員が一人しかいない会社はどうしても後回しになってしまいます。しかし、協会けんぽは、社会全体のセーフティネットとしての役割を果たすことが最優先なので、小規模な事業所にも案内を送ったり、働きかけを行ったり、なんとかして情報を届けることに注力できます。

田中　とはいえ、保健制度の活用は義務ではありません。使うかどうかは、すべてみなさんにゆだねられています。こちらがいくらサイトに情報を載せても、研修を開いても、「知らない」「わからない」とアンテナに引っかからないことも多いです。でも、伝える努力をあきらめたくない。何度も原点に返って、どうすれば届くのか、試行錯誤を続けています。

健康ってなんだろう？を子どもたちと一緒に考える

田中　全国の協会けんぽでSDGsの取り組みを進めるなかで、特に力を入れているのが「子どもへの健康教育」です。生活習慣病予防の大切さを呼びかける漫画教材を活用して、市や教育委員会に案内をしています。

齊藤　最近は甘いものや塩分の多い食事や、スマホやゲームの普及による運動不足に睡眠の質の低下など、大人だけでなく子どもにも関係のある話になってきました。食事、運動、睡眠といった毎日できることの積み重ねが大切なんだよと伝えています。

前田　保健体育のカリキュラムに生活習慣病やがんについても入っているので、学校側でも「子どもたちにどうやって教えていこうか」と考えていたのだと思います。こちらが想像していた以上に反応が良く、すでに小学校、中学校への出前授業が決まっています。

齊藤　「健康ってなんだろう」「なんのために必要なんだろう」ということを、子どもたちと一緒に考えたいと思っています。冊子の裏表紙には「みなさんの将来の夢は何ですか？」という問いかけを載せました。自分と大切な人の未来のために、これからも健康づくりを伝え続けていきます。

前田　「健康づくりは幸せづくり」。これはわたしたちのスローガンです。わたしたちは加入者のみなさんの健康づくりの伴走者として、一緒に歩んでいける存在でありたいです。